

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	文学研究科
大項目	7 国際交流
中項目	
小項目	7.0.1 国際交流（国内外における教育研究交流）についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	7.0.2 国際交流（国内外における教育研究交流）を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況（院）

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 国際性を活かした研究教育システムを確立する。	→国際化社会に対応したカリキュラム編成、海外の学会発表数、海外の研究者との共同研究への参加数、海外研修会への参加数。	B
2. 博士課程後期課程大学院生の海外における研究活動の活発化を図る。	→本学大学院海外研究助成金制度の申請者数。	B
3. 海外からの研究者の受け入、および専任教員の海外派遣を促進する。	→海外からの研究者の受け入れ数、専任教員の海外派遣数。	B
4. 外国語を母語とする専任教員を雇用する。	→外国語を母語とする専任教員数。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

☆ 小項目7.0.1	(現状説明) 2009年度、海外からの受け入れ学生は正規学生が4名と交換学生が1名であり、在籍学生数の2.4%と0.6%にとどまった。海外への学生の派遣は0名であった。目標1と目標2に掲げているように、国際的学術交流を深めるために、総合心理学専攻で採択された「平成21年度組織的な大学院教育改革推進プログラム」では、英語を母語とする外国人を特任助教として採用した。多数の大学院生が海外の学会で研究発表を行ったり、ミシガン大学で合同ゼミを開催するなど、外部資金導入により国際学術交流は大幅に活発化した。文学言語学科でも、2010年度から英語を母語とするネイティブの教授の雇用が決まっている。フランス文学フランス語学領域ではすでにネイティブの教授が指導している。
☆ 小項目7.0.2	文学研究科では、学会発表と研究のための調査による国際交流は盛んになってきた。しかし、海外への長期学生派遣は2005年以来皆無の状態であり、2009年度、学部生が長期(50名)短期(100名)合わせて年間150名参加した数字と比べると派遣による国際交流は実現していないのが現状である。国際学会への参加は活発化している。応用心理学センターを設置した私立大学学術研究高度化推進事業(平成19年度選定)の最終年度(平成21年度・2009年度)の事業報告書「先端技術による応用心理学研究」には、海外からの著名な学者による本研究科での講演および大学院生の海外研究発表成果が多数記録されている。
☆ その他	2009年度、本学大学院課の主導により「若手研究者海外派遣事業・組織的な若手研究者など海外派遣プログラム」(日本学術振興会)に6つの研究科が連携し応募した際に、文学研究科からは3つの領域にわたり21名の学生・研究員が含まれていた。結果は不採択であったが、2010年度からは、新たに本学独自の「大学院海外研究助成金」制度が設けられ、毎年48名の後期課程在学者および大学院研究員の海外における研究活動の支援・育成を目的として助成金が支給されることになった。外部資金と合わせ、今後、海外の研究発表・活動が増えることが予測される。

《特定6項目データ》

本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【文学研究科】			単位	2005	2006	2007	2008	2009	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	—	—	—	—	—		
指標2	国際交流協定締結国数		国	—	—	—	—	—		
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数	国	—	—	—	—	—		
		外国人留学生	正規	人	2	5	6	5	4	
			交換	人	2	3	4	2	1	
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	1.0	2.5	3.2	2.7	2.4	外国人留学生(正規)÷在籍学生数
			交換	%	1.0	1.5	2.1	1.0	0.6	外国人留学生(非正規)÷在籍学生数
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—				
指標4	海外への学生の派遣	国 数	国	—	—	—	—	—		
		人 数	長期	人	0	0	0	0	0	
			短期	人	0	0	0	0	0	
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)	長期	人	0	0	0	0	0		
		短期	人	0	0	0	0	0		
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)	長期	人	0	0	0	0	0		
		短期	人	0	0	0	0	0		
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	—	—	—	—		

注) 正規、交換について

正規とは学位取得目的(大学院生は特別学生を含む)。交換とは正規以外で大学院短期留学を含む

注) 長期、短期について

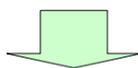
指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。

指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。

◎効果が上がっている事項

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項

小項目7.0.1	新中期計画事業の一環として博士課程後期課程大学院生の海外における研究活動の支援・育成を目的とした本学独自の大学院海外研究助成費制度の設立(2010年度開始)および本研究科(英米文学英語学領域)における英語を母語とするネイティブの教員の雇用を決定した状況など。
★小項目7.0.2	2009年度に採択された大学院GPプログラムにより、総合心理学専攻の大学院生が海外の学会で発表をする機会が増えている。GPでは英語を母語とする特任助教(任期制)を採用し、機能的な英語のコミュニケーション能力の育成のため、話す、書く、聴くの3つのスキルを系統的に教えている。
その他	特になし。



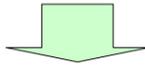
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目7.0.1	国際交流の方針を大学院入試オリエンテーションで志願者に周知する。必要な語学力を強化するため手段を講じる。
★小項目7.0.2	国際交流を活発化するための資金導入方法を検討する。すでに大学全体では、英語プレゼンテーションスキル講座を毎年設け、国際学会での発表で求められる基礎的な英語能力の育成を図っている。
その他	特になし。

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目7.0.1	助成金の申請など、事前に十分に時間を設けて大学院生にオリエンテーションすることが望ましい。
★小項目7.0.2	奨学金制度も含めて資金源を一括化できれば、応募者に分かりやすくなる。
その他	特になし。



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目7.0.1	改善すべき事項の検討を進める。
★小項目7.0.2	改善すべき事項の検討を進める。
その他	特になし。

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○現状説明が具体的で研究科独自の特色が出ており、それぞれ進展が見られ大変評価できます。院生の海外発表の機会の付与や英語でのプレゼンテーション能力の育成など具体的な努力がなされていて高く評価できます。

【学内委員】

○小項目7.0.1の説明においては、まず(方針)として、方針そのものを記述してから、現状説明してください。

○小項目7.0.1の現状説明は、小項目7.0.2での説明かと思えます。

○外国からの学生の受け入れについては一定の成果が認められますが、学生の外国への派遣の実績がありません。また、人的国際学術交流(受け入れおよび派遣)が少しずつでも実現できるような方策を考える必要があるでしょう。

○院生の海外派遣・留学は専攻によっては必須と考えられますので、早期に実現可能な方法を院生に示す必要があります。

○改善方法の記述において「検討をすすめる」などでは曖昧です。より具体的なものが望まれます。検討するについても、どこで、どこまで検討するのかなどの記述が必要でしょう。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- 小項目7.0.1 修正としてまず(方針)を次のように追加する。「大学院教育の国際化と国際交流を促進するため、外国語が母語の教員との交流、留学生の受け入れ、および海外での研究活動を促進する。」 同項目7.0.1の(現状説明)から以下の部分だけ7.02に配置換えする。「多数の大学院生が海外の学会で研究発表を行ったり、ミシガン大学で合同ゼミを開催するなど、外部資金導入により国際学術交流は大幅に活発化した。」
- ★ ○ 院生の外国への派遣について、まずは短期間の研修やフィールドワークなどを増やすために、学内の海外助成金制度への応募を奨励し、さらに大学院GPのような外部資金による国際学術交流を促進するための指導を行う。なお、文学研究科からの派遣ではなく、他の海外留学プログラムを利用して外国で研修・研究した大学院生はこれまでに少なからずいたことを追加する。

Ⅴ. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

7.0.0.S1	協定校と相互交流数(学生・教員)
7.0.0.S2	国別国際交流協定締結先機関数
7.0.0.S3	人的国際学術交流数

<個別的な指標>
